

PAT-NO: JP02000139676A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2000139676 A
TITLE: STATUE OF BUDDHA HAVING STRUCTURE CAPABLE OF HOLDING ASHES IN ITS BODY
PUBN-DATE: May 23, 2000

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
MASUDA, YOSHIHIRO	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
MSC TECHNOS:KK	N/A

APPL-NO: JP10349289
APPL-DATE: November 2, 1998

INT-CL (IPC): A47G033/00 , A61G017/08

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a statue of Buddha in which ashes can be placed in its body to be easily enshrined in a nearby place.

SOLUTION: A statue of Buddha has a structure of a cavity 2 in part of the inside of it, so ashes can be contained in the cavity 2. A cover 3 or a door is provided in a containing space, and a structure to facilitate putting the ashes in and out is provided. The ashes to be contained is sealed in a container of glass or ceramic, for example, so they can be prevented from being crushed while they are placed.

COPYRIGHT: (C)2000,JPO

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-139676

(P2000-139676A)

(43)公開日 平成12年5月23日(2000.5.23)

(51)Int.Cl.⁷

識別記号

F I

テマコード(参考)

A 4 7 G 33/00

A 4 7 G 33/00

A

A 6 1 G 17/08

A 6 1 G 17/08

J

審査請求 未請求 請求項の数2 書面 (全 2 頁)

(21)出願番号

特願平10-349289

(71)出願人 596136833

株式会社エムエスシテクノス

兵庫県神戸市中央区三宮町1丁目3番25号

(22)出願日

平成10年11月2日(1998.11.2)

(72)発明者 益田 義弘

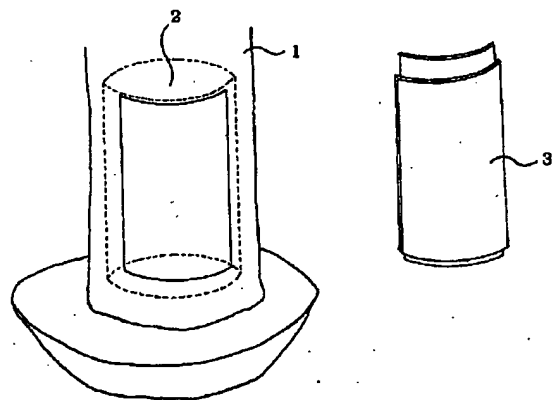
兵庫県神戸市西区美賀多台2丁目20-10

(54)【発明の名称】 体内に遺骨の安置が可能な構造を具備した仏像。

(57)【要約】

【目的】 本発明は、体内に遺骨を安置し、身近な場所で簡便にお祀り出来る仏像を提供する。

【構成】 本発明の仏像は、一部内部に空洞の構造を有し、その空洞部分に遺骨片を収納出来るようにした。収納する空間には蓋または扉を設け、遺骨の出入が簡便に出来る構造を具備する。収納する骨片は、例えば硝子や陶磁器の容器に密閉し、安置中の破碎を防止する構造とした。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 陶磁器或いは木質又は金属の仏像の内部が中空構造を有し、その空洞部分に遺骨を収納できる構造を特徴とする仏像。

【請求項2】 遺骨の収納が簡便に出来るよう、仏像後面に開閉自在な扉又は蓋を有する構造を特徴とする請求項1記載の仏像。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、仏像等の構造に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、内部に遺骨を安置する目的の構造を持った仏像は無いようである。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】身近な親族が亡くなったとき、葬儀を行ない茶毘に付し、墓地等に埋葬するのが一般的であるが、身近な遺族にとっては墓参等により亡くなった者への直接的な語り掛けや日常報告等の行為により、次第に心も癒されて来るものである。しかし、多忙な社会生活を営んでいる現代人にとって、頻度の高いお墓参りは大変な問題であった。

【0004】

【問題を解決するための手段】本発明の手段は、茶毘に付された遺骨の一片を仏像の体内に安置し、仏壇や厨子に収納し、身近な部屋の一隅にて簡易なお祀り出来るようにした。

【0005】仏像の内部の一部を空洞にし、仏像後面には開閉が自在な蓋または扉を設け、遺骨を簡便に収納で

きる構造を具備することを特徴とする。

【0006】収納する遺骨の破碎を防ぐために、例えば硝子や磁器の容器に密閉する構造とするのが良い。

【0007】

【発明の実施形態】本発明の実施形態を図1、図2を用いて説明する。この実施形態は、古来から伝承されている仏像の外部意匠1に、筒状の内部空洞2と蓋3を装着した形態である。

【0008】蓋3は、上方に滑らして下部を手前に引く、または押すことで容易に脱着が出来る構造を具備する。

【0009】安置する遺骨片は、遺族の語り掛けなどの精神行為を勘案するとき、例えば耳骨とするのが望ましい。

【0010】

【発明の効果】請求項1に記載の発明は、日頃多忙な社会生活を営み、墓参の時間さえも自由にならない遺族にとっての手軽な代用墓参が可能となり、精神の癒しが促進される効果が期待できる。また、請求項2に記載の発明は、仏像に遺骨を分骨収納する際に簡便となる効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

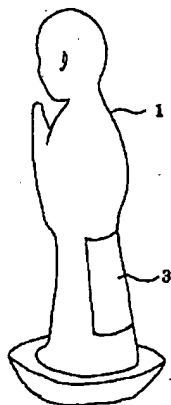
【図1】仏像の後方斜視図である。

【図2】本発明の実施形態を示す。

【符号の説明】

- 1 仏像
- 2 遺骨が納められる内部空洞
- 3 脱着が自在な蓋

【図1】



【図2】

